

学科通信（G）【第2号】

◇農繁期

農作業の中で忙しい時期のことを「農繁期」と言います。「のうはんき」と読みます。G科の草花部門もまさに農繁期で、今は全クラスで「ポット上げ」という管理作業をしています。ポット上げされたい苗たちが常に君たちを待っている状態です。忙しさを理由に小さな変化や植物の成長を見逃してしまいそうになることもあります、やはり心に余裕がないときほど花を愛でて癒されたいと思うものです。

草花は農業という分野で、唯一食用を目的としない物を生産しますが、大昔から草花の生産は行われています。ピラミッドの壁画にも花が描かれているそうです。今ほど農業の技術も進んで無かったにも関わらず、食料と同じように、もしかしたらそれよりも優先して花を生産していたかもしれないということは、きっとそれだけ我々の生活に欠かせないものなんだと思います。花と人間はとても幸せな関係にあります。サンマと大根おろしもそう、ポップコーンとキャラメルもそう、世の中は幸せな関係で溢れていますね。君たち生徒と我々もそういった幸せな関係であつたらいいなあ、と春の風に吹かれながら思いました。

昇降口のビオラがきれいです。ビオラって顔に見えるよね。お気に入りの表情を探してみてください。



◇勝手に学科テーマソング発表!!

誰と話したわけでも、相談したわけでもありませんが、学科のテーマソングを発表したいと思います。

今年度の学科テーマソングはザ・マスミサイルというバンドの「今まで何度も」という曲に決定しました。この一年はこの曲を頭の中で流してほしいと思います。とにかく歌詞が強すぎる。夢や目標に向かってチャレンジしている君たちの背中をきっと押してくれるような曲です。G科の生徒の傾向として、「あまり前に出たがらない」というのがあると思います。前に出ることが全て!!とは思っていませんが、自分が成長できるチャンスなのに出てこない、自分の将来のためにきっと必要な経験なのにチャレンジしないという人が多いと感じています。すごくもったいないと置農に来てからの2年間思い続けてきました。

学科テーマソングの歌詞に「夢と向き合う時くらい 真ん中にいさせて 正直にいさせて 脇役じゃなくって 主役でいようぜ」という部分があります。そういうことだよなあ、そうなんだよなあと思います。夢と向き合う時、親だったり、先生だったり、お金だったりいろいろ超えていく壁があると思います。ただ、君たちの一番の壁はやらない言い訳ではないだろうか。やらない理由を並べて自分の夢や目標と向き合わなかったり、チャレンジしなかったりするのが一番良くない。チャレンジできるG科であってほしいですね。まあ、いつでも頼ってくれよ。 0427 文責 齋藤慎吾